

2022年4月15日

# 最近の長野県経済の動向 (月例調査)

2022年1月、2月の経済データを基に、長野県内の景況を把握したものです。

## 概 要

全国景気	持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる
長野県内景気	持ち直しの動きに弱さがみられる
1月の生産動向	生産は足踏みがみられる
2月の個人消費	乗用車新車販売は9カ月連続で前年を下回る
2月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を下回る
2月の住宅投資	新設住宅着工戸数は3カ月ぶりに前年を上回る
2月の雇用情勢	有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を上回る
今後は、ロシアのウクライナ侵攻による資源価格高騰等の影響や個人消費の動向などを注視する必要がある	

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

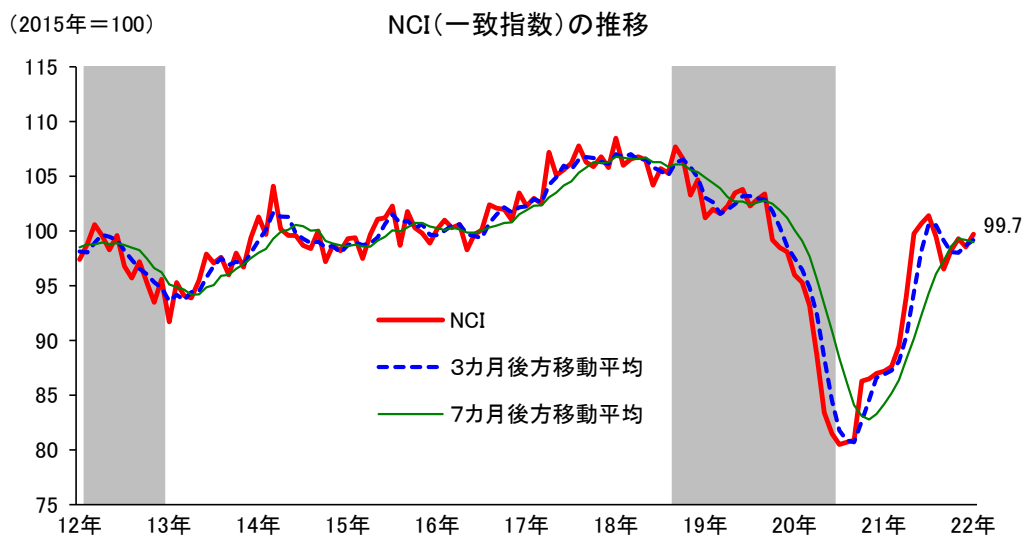
担当 桑井、中村

電話 026-224-0501

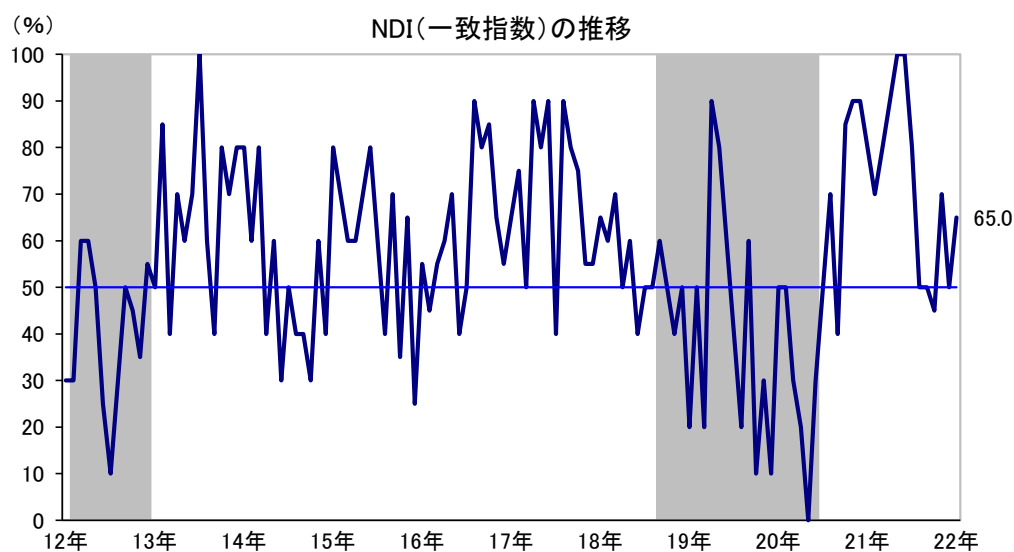


## 景気動向指数

- ・1月のNCI(一致指数)は、99.7と前月と比較し+1.2ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同+0.5ポイントと2カ月連続で上昇したが、7カ月後方移動平均は同△0.2ポイントと2カ月連続で低下した。NCI(一致指数)は、足踏みを示している。
- ・NDI(一致指数)は、65.0%となり、景気判断の分かれ目となる50.0%を2カ月ぶりに上回った。



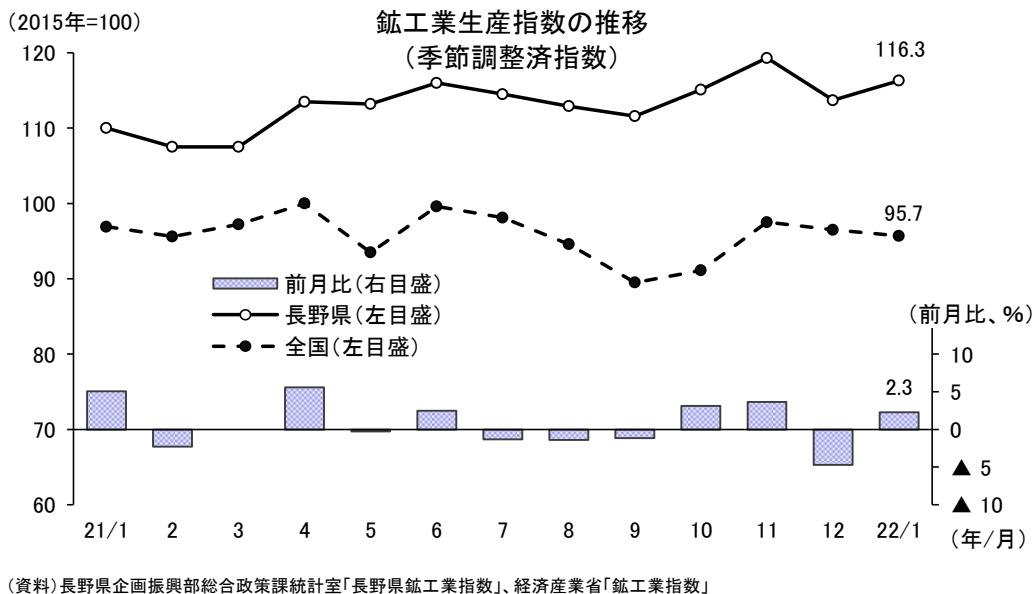
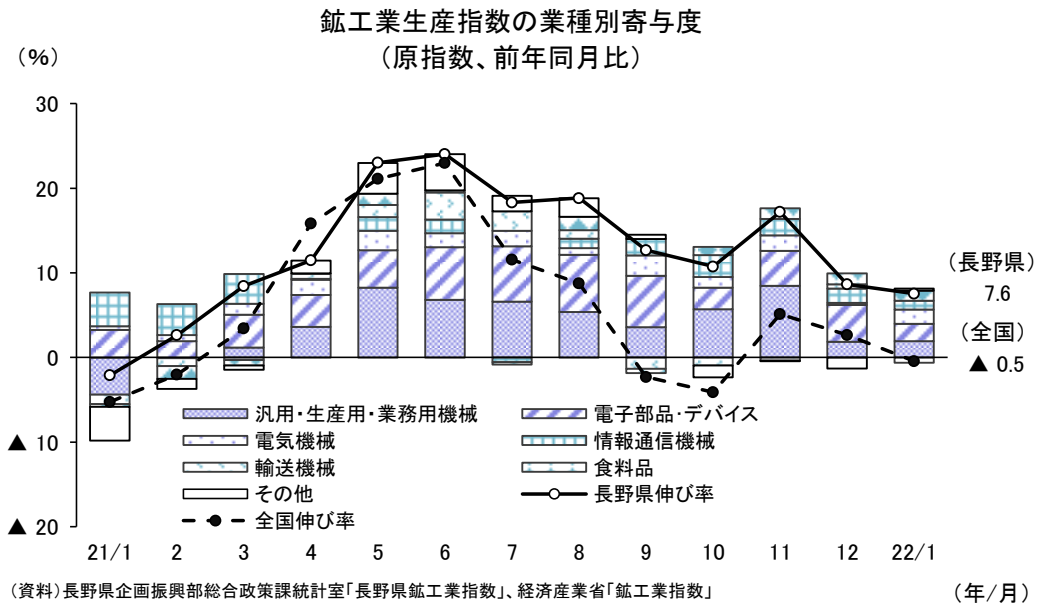
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」  
 注1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す  
 注2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」  
 注1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す  
 注2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

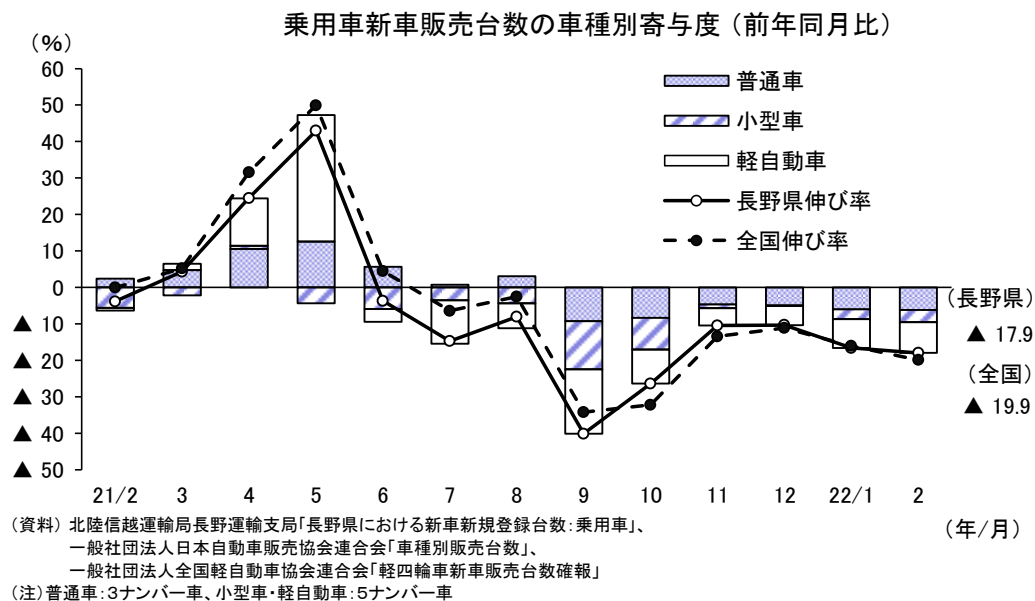
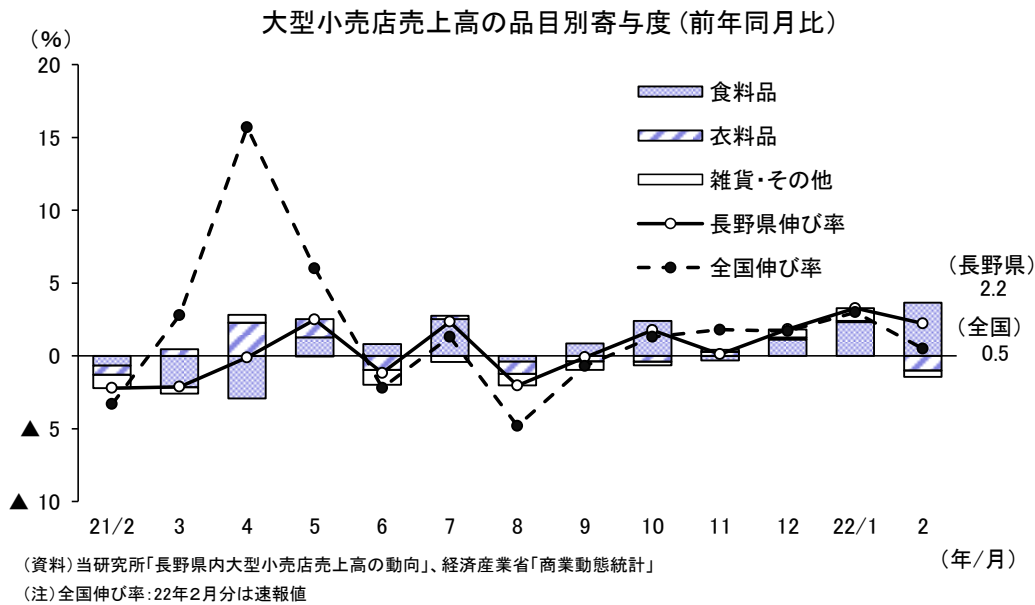
## 生産は足踏みがみられる

- ・1月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比+7.6%、季節調整済指数が前月比+2.3%となった。
- ・原指数は12カ月連続で前年を上回ったほか、季節調整済指数は2カ月ぶりに前月を上回った。中国や米国を中心とした外需の増加や内需の持ち直しが続いているものの、半導体などの部品不足の影響により、生産は足踏みがみられる。
- ・主要業種別にみると、「電子部品・デバイス」、「汎用・生産用・業務用機械」、「電気機械」など多くの業種で前年を上回った。



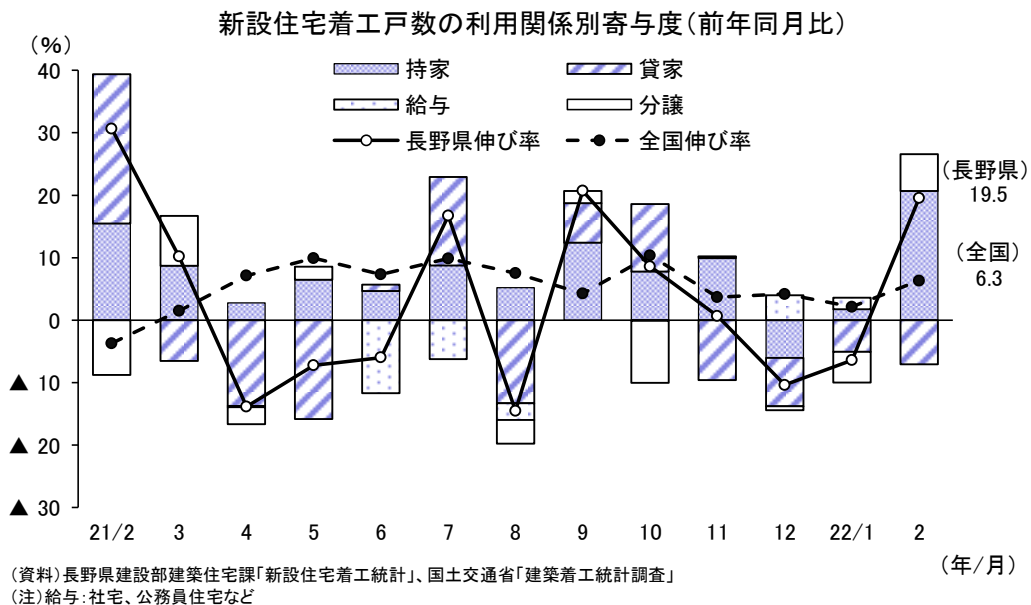
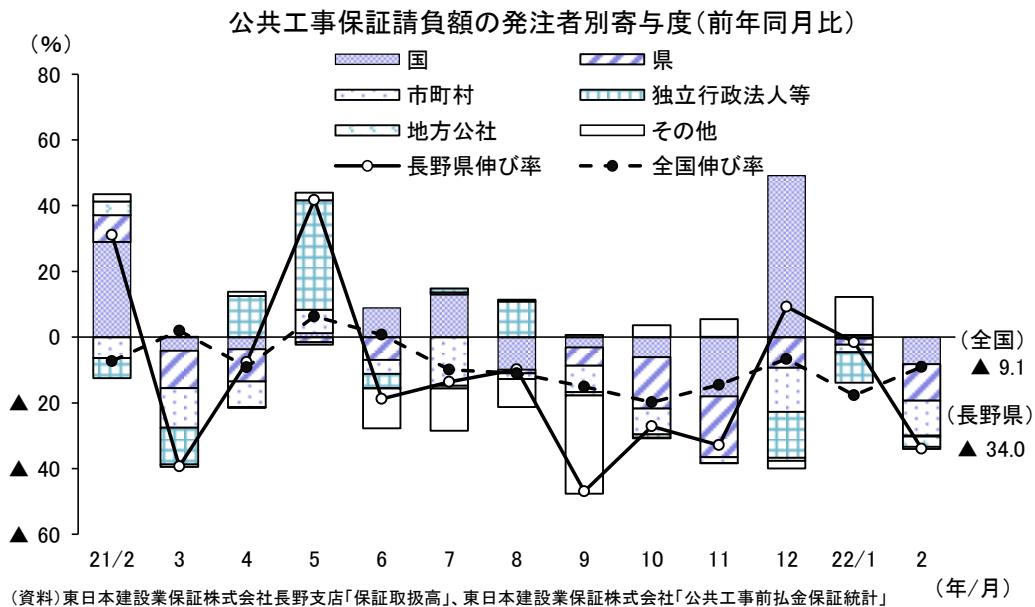
## 乗用車新車販売は9カ月連続で前年を下回る

- 2月の大型小売店売上高は、前年同月比+2.2%（売場面積調整前）となり、5カ月連続で前年を上回った。食料品は、内食需要を背景に生鮮食品などの売上げが増加し、同+4.3%となった。衣料品は、まん延防止等重点措置の適用や降雪など悪天候による影響で客数が減少し、同△19.8%だった。雑貨・その他は、身の回り品や化粧品などが低調で、同△4.6%だった。
- 2月の乗用車新車販売は、半導体不足に伴う納車遅れが影響し、前年同月比△17.9%と9カ月連続で前年を下回った。普通車は同△19.4%と6カ月連続で、軽自動車は同△18.7%と9カ月連続で、小型車は同△14.5%と10カ月連続で前年を下回った。



## 公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を下回る

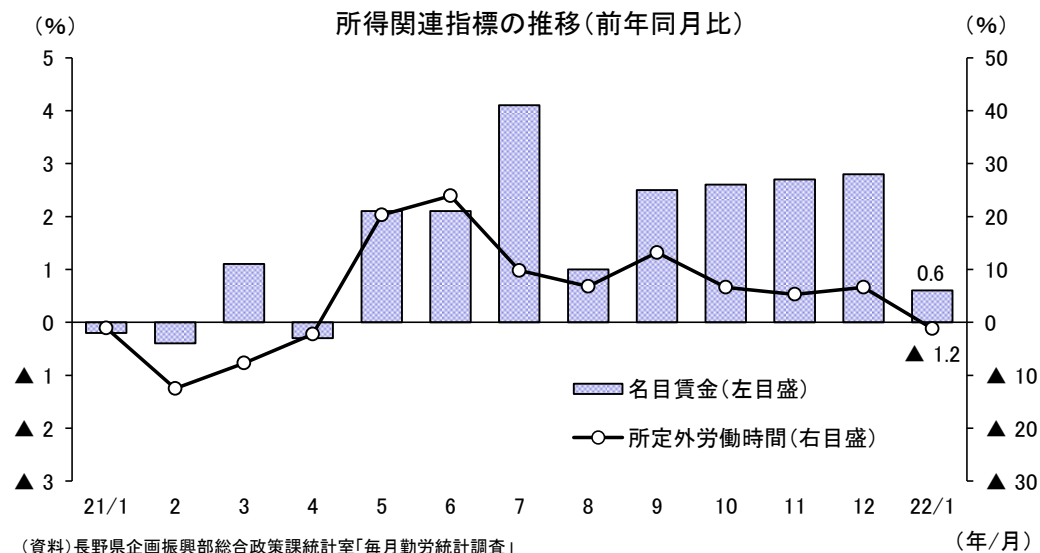
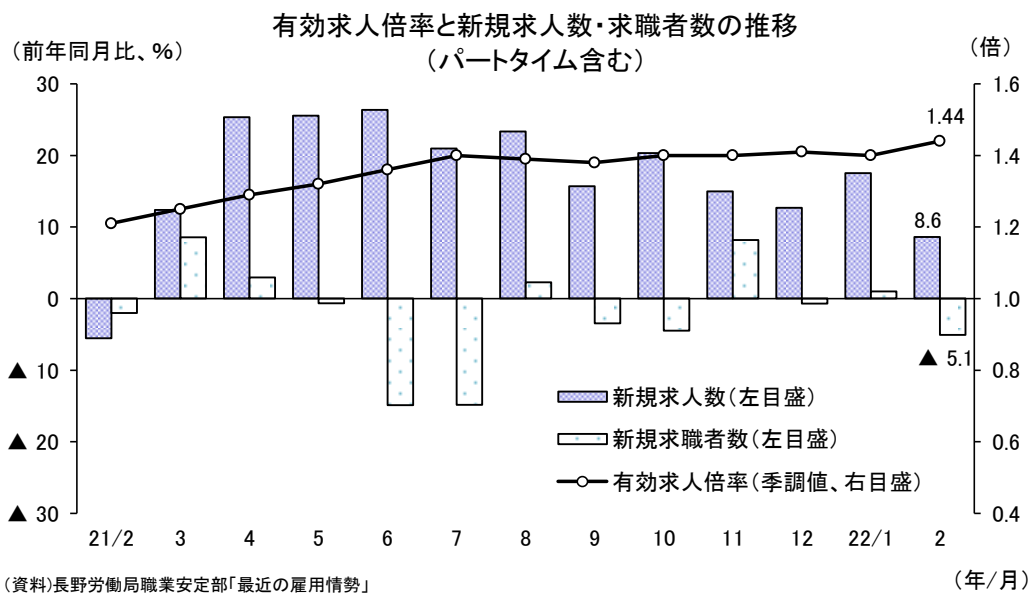
- ・2月の公共工事保証請負額は、前年同月比△34.0%の90億8,800万円となり、2カ月連続で前年を下回った。発注者別にみると、国が同△26.4%、県が同△26.7%、市町村が同△48.2%、独立行政法人等が同△100.0%、地方公社が同△100.0%、その他が同△30.0%といずれも減少した。
- ・2月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+19.5%の948戸と3カ月ぶりに前年を上回った。利用関係別にみると、貸家が同△23.0%と減少したものの、持家が同+37.9%、分譲が同+40.9%と増加した。



# 雇用

## 有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を上回る

- ・2月の有効求人倍率は、前月比+0.04ポイントの1.44倍と、2カ月ぶりに前月を上回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比+8.6%となり、12カ月連続で前年を上回った。このうち常用は同+12.6%、パートは同+3.5%となった。主要産業別では、製造業が同+25.0%、宿泊業・飲食サービス業が同+19.4%、卸売業・小売業が同+5.9%、建設業が同+2.5%と、多くの産業で前年を上回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△5.1%と2カ月ぶりに前年を下回った。
- ・1月の名目賃金は前年同月比+0.6%と9カ月連続で前年を上回り、所定外労働時間は同△1.2%と、9カ月ぶりに前年を下回った。



# 県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

## 10カ月連続で4地域とも前年を上回る

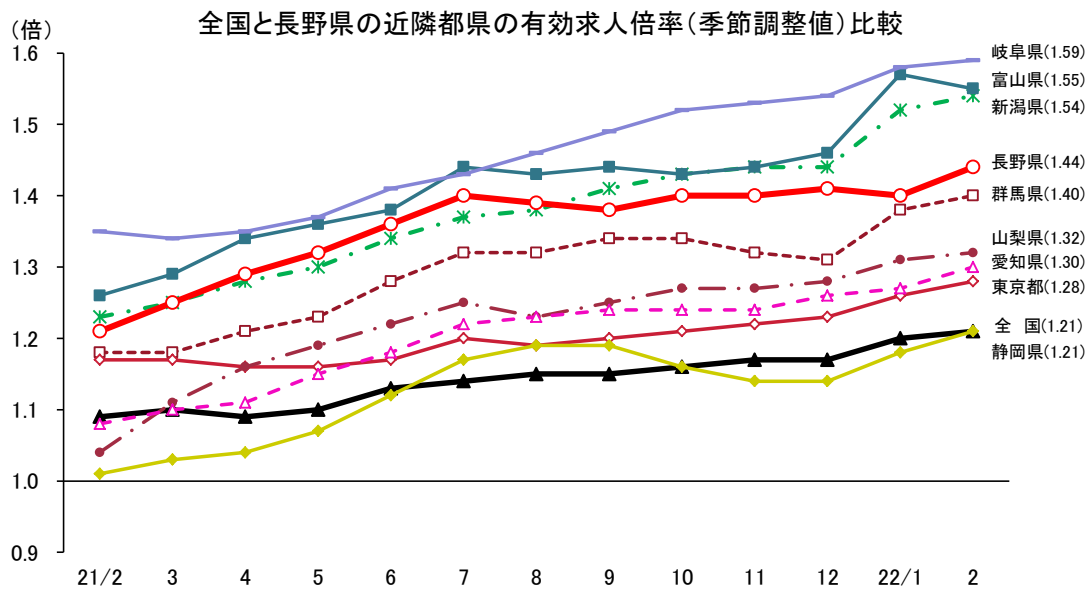
- ・2月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比+0.14ポイントの1.50倍、東信が同+0.22ポイントの1.59倍、中信が同+0.27ポイントの1.47倍、南信が同+0.35ポイントの1.55倍となった。10カ月連続で全ての地域で前年を上回った。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、長野を除く全ての職業安定所で前年を上回った。
- ・長野県の有効求人倍率は17カ月連続で全国を上回り、順位は前月から1つ上げ13位だった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(22年2月)

地域	北 信(1.50) (前年同月比0.14)				東 信(1.59) (前年同月比0.22)		中 信(1.47) (前年同月比0.27)			南 信(1.55) (前年同月比0.35)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.50	1.50	1.45	1.52	1.54	1.65	1.49	1.61	1.21	1.45	1.53	1.63
前年同月比 (ポイント)	0.00	0.20	0.40	0.32	0.15	0.29	0.28	0.07	0.26	0.23	0.38	0.41
うち常用	1.25	1.41	1.31	1.43	1.34	1.68	1.26	1.51	1.17	1.35	1.33	1.52
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.08	0.14	0.37	0.30	0.21	0.31	0.19	▲ 0.01	0.22	0.21	0.30	0.38

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」

(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む

2. 長野県の近隣都県及び、経済規模、産業構造が類似している県

(年/月)